

氏名	<small>みつたけともみ</small> 光武智美
学位の種類	博士（健康科学）
学位記番号	第 23 号
学位授与年月日	令和 3 年 3 月 20 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当者 看護学研究科健康科学専攻
学位論文名	自閉スペクトラム症児及び注意欠如・多動症児の保護者のニーズを踏まえた小学校での性教育に関する研究 A study on sex education in elementary school based on the needs of parents of children with autism spectrum disorder and attention deficit hyperactivity disorder
指導教員	吉村匠平 教授 平野互 准教授
論文審査委員	主査：高野政子 教授 副査：稲垣敦 教授・杉本圭以子 准教授

論文内容の要旨

【目的】

本研究の目的は、特別支援学校での性教育の現状、ASD 児及び ADHD 児の保護者が認識している性教育のニーズを明らかにし、その結果に基づき、学校での性教育について検討することである。

【第 I 章】

特別支援学校での性教育の必要性の認識及び実施状況について、質問紙法による全国調査の文献結果を集約、整理した。結果、小学部での『二次性徴』の実施が少なかった。その理由として、性教育が教育課程へ明確に位置付けられておらず、性教育と認識した上での実施が十分でないことを指摘した。学校での性教育は保護者との連携が不可欠だが、性教育の必要性の認識や、誰がいつ頃からどのような内容を教えるのかといった、保護者の考えが明らかになっていなかった。

【第 II 章】

通常の学校で教育を受ける機会が増えつつある ASD 児及び ADHD 児の保護者を対象に性教育の必要性の認識について全国調査を実施した。保護者は小学生の子への『二次性徴』の教育を求め、二次性徴が出現する小学 3、4 年及び 5、6 年の時期を性教育の開始時期と認識していた。知的発達の状態が遅滞無、ボーダー、軽度の子の保護者は『人間関係』『結婚・性交』『問題行動』の必要性を高く認識していた。

【第 III 章】

第 II 章で明らかになった ASD 児及び ADHD 児の保護者のニーズを踏まえ、小学校での『二次性徴』を中心とした性教育内容の検討を行った。検討するにあたって性教育分類を整理した。『身体』と『二次性徴』を同じ領域に、『人間関係』と『結婚・性交』を同じ領域に、『問題行動』を『人間関係』に含めた。『二次性徴』を取り上げるまでに、動物や人間の身体の成長・発育についての理解しておけば、それがその後に学習する『二次性徴』の理解を深めていくことが可能になる。『人間関係』と『結婚・性交』を同じ領域で取り扱うことで、小学校の低学年から将来の性的人間関係の進展を視野に入れながら『人間関係』に関する取り扱い内容を性教育に位置づけていくことが可能になる。また、『問題行動』を予防し、『結婚・性交』を視野に入れた『人間関係』の良さを求める性教育を展開することが可能になる。性教育内容は、「国語」や「算数」といった個別指導が必要な教科ではなく、ASD 児及び ADHD 児と障害のない児童生徒と一緒に学ぶことが可能な、「生活科」「理科」「体育」「家庭科」「特別活動」「特別の教科道徳」の範疇で性教育を行えることを提案した。

【結論】

本研究で提案する性教育内容は、ASD 児及び ADHD 児と障害のない児童生徒と一緒に学ぶことができ、性教育におけるインクルーシブ教育の構築を可能なものにする。保護者のニーズが必ずしも高くはない小学校低学年では間接的な性教育の内容を学び、保護者のニーズの高い『二次性徴』を小学 4 年で実施する。小学校高学年では『二次性徴』に関連付けながら各教科等の性教育に関する内容を学

び、中学校進学以後の直接的な性教育を見通した性教育内容を提案した。小学校低学年から段階的・教科横断的に性教育を実施することが十分に可能であることを指摘した。

Abstract

This study examines sex education in elementary school based on results that clarified the need for sex education, as recognized by parents of children with Autism Spectrum Disorder (ASD) and Attention Deficit Hyperactivity Disorder (ADHD). Parents of ASD and ADHD children seeking education regarding secondary sexual characteristics in children in elementary school, recognize that the third, fourth, fifth, and sixth grades, when secondary sexual characteristics appear, are when sex education should be started. Based on these needs, the content of sex education focusing on secondary sexual characteristics in elementary school was examined. In the examination, sex education was classified, and body and secondary sexual characteristics were grouped in the same domain; while Human relationships and marriage and sexual intercourse were grouped in the same domain, with “problem behavior” being included in human relationships. Until secondary sexual characteristics appear, if there is an understanding of the physical growth and development of animals and humans, it is possible to deepen the understanding of secondary sexual characteristics that may be studied later. By grouping “human relationships” and “marriage and sexual intercourse” in the same domain, it becomes possible to position the handling of content related to human relationships in sex education while incorporating the development of future sexual relationships from the lower grades in elementary school. Furthermore, it may be possible to develop sex education that prevents “problem behavior” and pursues “human relationships” with a view toward “marriage and sexual intercourse.” The authors propose that sex education is not a subject that requires tutoring for subjects, like the Japanese language or mathematics. We suggested that sex education should be conducted in life sciences, science, physical education, home economics, special activities, and/or moral education. The content of sex education proposed in this study enables children with ASD or ADHD to study with children without disabilities, making it possible for sex education to be inclusive. The content of indirect sex education is learned in the lower elementary school grades, where parental considerations are not necessarily high. Education on secondary sexual characteristics is implemented in the fourth grade, when there are increasing parental concerns. There have been proposals that, in the upper grades of elementary school, students learn sex education-related content indirectly in each subject, associating it with secondary sexual characteristics; whereas after advancing onto junior high school, students could have a direct sex education. It has been indicated that it is possible to implement sex education step by step and across subjects from the lower grades of elementary school into future grades.

論文審査の結果の要旨

国連の「障害者の権利に関する条約（2006）」や「障害者基本法の改正（2011）」の採択により、文部科学省はいかなる学校においても発達障害のある児童生徒の在籍を前提に、インクルーシブ教育構築のために工夫することを求めている。現在、自閉スペクトラム症（ASD）児や注意欠如・多動症（ADHD）児が、通常の学校で教育を受ける機会が増えている。本論文では、全国のASD児およびADHD児の保護者を対象に性教育の必要性について調査を行い、性教育は家庭では十分できないので学校で実施してほしいという保護者のニーズを明らかにした。さらに、性教育の枠組みとして、「身体」「二次性徴」「人間関係」「結婚・性交」「問題行動」を検討し、ASD児およびADHD児の保護者のニーズを踏まえた小学校での性教育の在り方の試案を作成した。本研究の新規性は、普通校の発達障害児の性教育について焦点化した点にある。一方、試案は小学校の教育場面での具体策を提言するに至っていないことが今後の課題と考える。審査では、審査委員の質問に対して適切に回答し、コメント全てに対して本論文を訂正した。また、下記の筆頭論文2本が、査読のある学術雑誌に掲載されており、副論文の要件は満たしている。以上の理由から、本論文は博士（健康科学）の学位を授与するに相応しい論文であると判断し、合格と判定する。